鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議第3回会議　会議概要

【開催日時】　平成23年11月30日(水)14時～16時
【場　　所】　鹿児島市役所東別館9階特別中会議室
【出 席 者】
○委　員：石田尾委員長、奥村委員、上池委員、北方委員、久保委員、黒江委員、花倉委員、清水委員、飛松委員、永山委員、春山委員、松田委員、持増委員、山﨑委員、山本委員
○事務局：窪島市民局長、瀬戸口市民部長、村山地域振興課長、枝元地域振興課主幹　ほか

【会 次 第】
(1)開会
(2)協議
①第2回会議について
②モデル地域の選定について
③コミュニティづくりの4つの方策について
(3)その他

【会議の内容】(◎は委員長の発言、○は委員の発言、●は事務局等の発言)
(1)開会
委員長より開会あいさつ
(2)協議
①第2回会議について
第2回会議概要について事務局説明
【質疑なし】

②モデル地域の選定について
モデル地域の絞込み状況について事務局から説明
○委　員
・大体どういうところに打診しているのか。公表はできないのか。
●事務局
・現在地域に説明に行き、理解をいただいている途中である。もう少しはっきりした段階で発表させていただきたい。選定にあたっては、地域バランスに配慮し、校区の規模の大小などパターンを限定せずに選定してまいりたい。
○委　員
・市全体の町内会長や校区公民館運営審議会委員長などにはビジョンの説明はしているのか。
●課　長

・7 月に町内会長向けに行った、コミュニティ研修会で説明をしている。欠席された会長には資料をお送りしている。

○委　員

・5 地域のいろいろな現状、今後の見込みを勘案して選ぶということであるので、他の地域は全く名乗り出られないということか。

●事務局

・モデル地域の選定は、地域の情報や生涯学習課からの校区公民館運営審議会の状況を聞いている。来年度モデル事業を行っていくが、制度自体が固まったものではないので、モデル事業を進め、戦略会議で評価・検証していただきたいと思う。その中で、地域が手をあげるというのも想定されるが、今は地域の実情などを踏まえながら、できるところからやっていきたいと考えている。

○委　員

・八幡振興会やまさご振興会の活動を聞いて、どんなものを目標とすべきなのか、八幡、まさごのあり方が一つのモデルになるのではないかと考えていた。事務局もそう思っているのか。

●事務局

・八幡校区や鴨池校区は連携した組織の基盤ができつつあるので、そういったものに注目して進めていきたい。

○委　員

・八幡校区振興会は 29 町内会でできている。まとまってみえるが、実際は 3500 世帯あるので、いろいろなご意見がある。それを一つにこうだと決めるのは難しい。マンネリ化もある。変えようとしても、切り替えが難しいということもご理解いただきたい。

○委　員

・校区公民館運営審議会に話を持っていっているということなので、今後審議会が中心となって動く形になっていくのかなと思うが、審議会の位置づけはどうなっていくのか。

●事務局

・現在教育委員会と協議しているが、校区公民館運営審議会は歴史ある組織であり、今緩やかな連携ができあがっている地域でそれをリードしている。しかも、青少年健全育成だけでなく、地域づくりも携わっている。現在、負担感・重複感がないように協議を進めているところである。

○委　員

・口頭でいろいろな地域にヒアリングしたと報告があったが、それだけでは意見の出しようがない。いろいろなパターンの中からどういうところをモデルにすべきかという選定基準を決めてほしいということであれば、分かるが。

○委　員

・校区公民館運営審議会委員長や町内会長などの名前が出てきたが、ＮＰＯ法人や任意のコミュニティ団体へのアクションについて具体的な説明がなかった。既存のコミュニティに頼るやり方もあるが、一つ既存にないような仕組みも試してみる価値

があるのではないか。そういうところに対する進め方も議論すべきではないか。

○委　員

・校区公民館運営審議会には20人の委員がいて、各組織の長が集まっている。今やっていることがどうコミュニティ協議会に結びつくのか。拡大ということか、組織をしなおすということか。

○委　員

・校区公民館運営審議会だけで十分という意見が多い。審議会で全部している。審議会の中で情報交換をしている。市の当局も審議会が行われるときに顔を出すことが大事ではないか。谷山校区では、校区公民館運営審議会があるのだから、そこで十分検討していこうという意見が聞かれる。

○委　員

・校区公民館運営審議会はどの校区にもあるが、校区社会福祉協議会、女性団体などと同じように並列にはできない組織関係だ。校区公民館運営審議会の中にほとんどその団体の長が入っている。審議会で話し合って、各組織に持ち帰り、各組織で話をしている。自分が住む地域では、町内会長会が中心的な組織である。校区には町内会連絡会みたいなものもある。その上部組織として町内会連合会というものもある。そこへも働きかけをして協力をもらわなければならないのでは。衛生組織連合会とはつながっているが、町内会連合会とつながっていないように感じる。

○委　員

・校区公民館運営審議会を中心にやっていこうという案は現実には合っていると思う。ただ、全部の分野をしている訳ではなく、社会教育法にのっとって生涯学習という観点の活動を行っている。その中に青少年育成もあり、そこから防犯などの活動も行っている。ただ、自治といった分野はない。町内会にも十分話をしながらやっていかないといけないのではないか。

・自分は町内会連合会の役員をしている。市や市内の町内会へもはたらきかけたが、鹿児島市の方針などもあり、目立ったメリットもないということで、どんどん加入町内会が減っていき、現在加入している町内会は800のうちの100程度である。会長もいるので意見を取り入れていただきたい。

○委　員

・松元地域で昨年町内会連絡会を発足させた。町内会長も1年交代でいろいろあり、温度差がある。1年間何となく過ごせばいいと考えている会長もいる。地域に50町内会あるが、町内会連絡協議会に入りませんかというと、負担金がでてくるのではないかと警戒する町内会が多い。まずは意見交換・情報交換の場として集まりましょうと言ってもまだ30しか入っていない。

・小さい町内会では、校区公民館制度ができてから、今までできなかったことを校区公民館でできているのだから、それで満足という会長もいる。今ようやく校区公民館で、新しいことを取り入れながらやっているときに、さらに別なことがでてくると、戸惑いがでてくるのではないかと、気になる。皆が揃って必要性を感じて入ってくれればよいのだが。

○委　員

・このビジョンは一般にどの程度浸透しているのか。どのように広報しているのか。

○委　員

・自分が住む地域では、今町内会の立上げに向けて勉強をしている。町内会と各種団体との関係という資料を見て、町内会の役員にでもなったら大変なことだと思った。校区公民館運営審議会などというものは初めて知ったので、一般の人は各種団体との関係などは知らないと思う。

◎委員長

・既存の組織と、今我々が目指している地域コミュニティ協議会の広域のモデル事業と既存の組織の中でも十分対応できない部分をだしていかないと、組織の名前だけで見てしまうと判断がつきにくい部分もあると思う。そのあたりで事務局から「ここを一番大事にしている」というところをもう一度説明していただきたい。

●事務局

・前回モデルイメージを示した図は、既存の組織を組みなおす過程で地域の中で地域の中にある負担感を減らし、地域・校区として地域づくりに取り組める組織をイメージしたものである。ＮＰＯ、通り会、女性団体、児童クラブなどは校区公民館運営審議会の委員に入っているし、情報交換ができていると聞いている。地域にある様々な組織を組み直し、連携組織ができれば、その中で情報共有と連携、マネジメントができると期待している。ただ、新しいものを作るときに、まず既存のものをベースに作っていく過程で、地域に合ったコミュニティを作ってほしいと思っている。

・広報については、市民のひろばで特集を組んだり、公募委員を募集するときに説明を行ったりしてきた。また、ビジョンを策定するときに町内会や校区公民館運営審議会にご意見をいただいている。

・現在、部分、部分で取り組んでいるものを、組み直していくのがビジョンの過程であると思う。地域に合った部会を作り、地域に合った組織に入ってもらいたいと考えている。地域にあるＮＰＯ、福祉施設、商店街を活用するという形になっていけばと思っている。

○委　員

・地域公民館で生涯学習の講座などを行うと、受講生のレベルの高さに感激する。その時に思うのが、団塊世代の人を積極的に活用したらどうかということだ。どうしても現役中は忙しくて地域に参加できない。そういった人たちが退職して、能力を持て余しているところがある。地域の行事にそういった人たちを活用したほうがよい。若者より高齢者の方が礼儀正しく、あいさつもでき、知識・経験があり、人をまとめられる。校区公民館活動が活発なところをモデルにして、団塊の世代に呼びかけて地域を再生するということが重要だと思う。

○委　員

・平成 19 年度の町内会再生検討委員会に参加したが、地域のコミュニティが危機に瀕しているということが一番の問題である。校区公民館はある程度枠が限られている。広くまちを見直そうというのがビジョンにあると思う。既存の組織にとらわれがちだが、事業所や福祉施設など新しい活動体にも目を向けていかなければならないと

思う。町内会だけでは手が足りていない現状がある。もう少し新しい形でコミュニティを見直していこうという働きかけをしなければならないと思う。この会の中で盛り上げていけるようなことが出てくればよいと思う。

○委　員

・既存の組織を丸々取り込んで新しいものを作ると言われてもピンと来ない。校区が2 つかぶっても、コラボしてもいいのではないか。そこにコミュニティができればいいと思う。新しいコミュニティを考えていけばそこに突破口ができるのではないかと思う。校区にとらわれなくてもよいのではないか。市内には 800 町内会がある。老人クラブなどの組織も何百とある。活発なところと活発なところが結びつき、波及させていくというのがまちづくりであり、コミュニティづくりだと思う。最初に校区公民館や町内会連合会とかに狙いをつけずによくやっている地域を引っ張り出して行くという発想からいったほうがよいのではないか。

○委　員

・ビジョンの推進戦略会議ということで自分たちは集まっている。ビジョンは前年度に出来上がっていて、私たちはビジョンを語るのではなく、それをどう推進していくかを議論しなければならないと思う。今のテーマはモデル地域をどうやって選定するということではないのか。前回の「コミュニティはこうあるべきだ」という議論と進歩していないような気がする。モデルというものがテーブルの前にあり、それに対してどの地域がそれにチャレンジできるかという議論をこの場でしないといけないと思う。

○委　員

・反論する訳ではないが、今集まっている委員のほとんどは、団体の長である人が多い。それをこの方向に持っていくにはどうすればいいのかという頭がある。私もそうである。

○委　員

・結局人材の育成である。市老人クラブ連合会の場合は、今年若手委員会を発足させた。各地域にも若手委員会を今年中に作る。地域の活性化に一緒に活動することが必要ではないか。若手委員会の育成に総力をあげ、それが結局コミュニティにもつながっていくと思う。人材がいないと盛り上がらない。町内会長に役が集中する。そうなるとなり手がいない。問題は人材育成だ。それが土台となって全てコミュニティも成功するのではないか。何かをするにしても人材がいないとできない。

○委　員

・校区を超えてという話しが出たが、紫原は、台地は一つとして、3 つの校区が一つになって協議している。それぞれ寄り集まって、いくつかの行事を一緒にしようとしている。大きな組織の中で、このビジョンができて、それぞれが組織として、それぞれの審議委員が入っていくという活動になるなら、いい意味の拡大した地域コミュニティになるのではないか。もともとは健全育成大会で、子供が入組むので、始まったが、お祭りもそうしよう、と広がりつつある。それぞれが、今ある組織が何とかしなければという動きがある。そういったものを生かして新しいものを作っていただけたらいいなと思う。

●事務局

・いろいろな地域で、いろいろな活動があるが、限界もある。モデルイメージは固定するものではなく、いろいろな組織の方々が集まり、地域課題を共有して、コミュニケーションの場として、コミュニティ協議会を活用してほしい。市街地や郊外など多様性にとんでいるそれぞれの地域課題を考えてもらう協議会をまず作り、基盤を作ったうえで、地域プランを作り、地域を考えていただきたい。自分の住む地域を考え、どうしたいということを話し合える場でなくてはならないと思う。

○委　員

・新しいものを作るより大変なことである。でも、企画を聞いて本当にいいなと思った。役員の選出、人材が適当に活用されていないなど課題があり、それによって差が出る。事業や行事をするにしても差が出る。意見交換をするといつも格差の問題が出てくる。コミュニティビジョンを聞いていい事業だ、これを中心にして地域の住民が楽しく暮らせるまちづくりができたらいいなと思っている。先日宇治で研修を受けた。そこで隣になったのが、西宮市の西島自治会の方だった。その自治会は加入率 96%とのことで、「目的を達成するために充実した、住民に喜ばれるニーズに合ったものを行えば、加入率はあがってきますよ」と言われて恥ずかしい思いをした。

・大きくなっても組織運営上大変だということも聞いている。鹿児島の場合は学校という中心になるものがあるので、そこを中心にするというのはいいと思う。小さい校区は校区社会福祉協議会でも一緒になってやったりしているので、一緒になってやればいいのではないか。やはり校区という１つのまとまりはいい組織体ではないかと思う。皆さんの選定についての意見を市で聞いていただいて推進をしていただけたらと思う。

○委　員

・モデル地域ということで、校区公民館運営審議会の盛んな校区にあたり、必ず成功するというところを選定していると思うが、様々なケースがあって、全て成功ばかりではなくても、問題点を出していく意味で、違った形のものもやってみてはと思う。

◎委員長

・地域コミュニティ協議会のモデルが必要性の背景に対する共通の認識があるかということが今日出てきた。町内会、通り会、女性団体、ＮＰＯ法人の皆さんだとか、校区公民館運営審議会に従来入っていなかった組織もある。新しい共生という形の地域づくりの皆さんもいる。それぞれ独自の取り組みが十分満足いっているかというと必ずしもそうではない。社会経済環境がこれだけ変化している中で、手法は同じではないかということもある。

・加入率が 60%を切っているが、地区別に見ると高いところは 90%のところもあるし、低いところはものすごく低いところもある。60%を切っていることが組織として仕事ができないことかというと必ずしもそうではない。地域の皆さんの努力でいろいろな取り組みがされているのではないかと思う。

・今日出てきた共通の認識があると思う。例えば、今度の震災のようなときに、1 つ

の町内会ではどうにも対応できないということがある。防災上や被災地の取り組みである。そういうときにコミュニティ協議会のような組織があれば、大きな力を発揮しうるのではないか。一つの町内会で対応するのは限界があるのではないか。

・そういう意味から地域バランス、旧五町域から 1～2 地域選定、旧市域から 3～4 地域程度選定するということでモデル事業として一度やってみることが、次の新しいステップとしてつながっていくのではないか。

・町内会が町内会のことだけをするのではなくて、力を合わせてやれる事業もあるのではないかという話も出てきた。可能性を求めていくということも新しいまちづくりの方向性ではないかと思う。地域コミュニティが十分機能していない側面があるなら、それをどう補っていくかという点が一つ。そして新しい形の活動形態の必要性があるが、それにどう取り組んでいくかということ。校区というキーワードがでてきているが、これが一番今までの内容を吸収しているのではないか。これを核にしながら、協議会のモデルを作っていけないだろうか。

・旧市内だけのイメージで話をしがちだが、合併前から抱えていて、合併後も解決できない課題も合ったと思う。新しい活動の母体が必要ではないかということで、協議会という形が必要ではないかと思っている。

・前回も堂々巡りした箇所があるが、コミュニティづくりの 4 つの方策が【資料 3】で示してあるので、話を聞いて、また皆さんから意見をいただきたいと思う。

③コミュニティづくりの 4 つの方策について

コミュニティづくりの 4 つの方策について事務局説明

◎委員長

・コミュニティづくりの方策ということで 4 つ掲げているが、このコミュニティ協議会ができれば、何が組織運営で一番メリットになるかである。2 番目の人づくりのところで、リーダーの育成はもちろんだが、事務局人材の育成ができるということでコミュニティ協議会の中に専従スタッフを置くことができるということだ。これまでなかったことだ。専従の事務局職員が地域の中のコアとして役割を担ってくれるということであれば、活動と組織を結ぶコーディネートの役割もできる。この点は新しい。

・市が計画の中で、④“結い”づくりを前面に出してきた。新しい、「ネオ“結い”」ということになると思う。“結い”とは緩やかな結びつきだが、制度的にという形で少しデフォルメして、組織を動かしていくということである。

・協議会にはもうひとつとても大事な要素が抜けている。人・金・物・情報のマネジメントである。資源のマネジメントをどうするかが一つの大きな研究テーマである。マネジメントができない組織は伸びない。町内会も応用ができる。

・意識啓発のところは、これから鹿児島市の人口は減る方向だと思う。若年層に向けた啓発、勤労世代、子育て世代に向けた意識啓発とあるが、先ほども出てきた団塊世代も大きな役割を担うと思う。そういった世代に向けた意識啓発があると思う。フラットに並べるのではなく、手順を議論するときには、手順の優先度を決めて、絞込みをしていかないと、ただ並べただけでは難しいと思う。話し合いの深みを持

ってもらいたい。

・皆さんからも独自の考えを出していただきたい。

○委　員

・11 月 28 日の南日本新聞にコミュニティスクールの記事が載っていた。鹿児島はまだ 1 校もない。他の県は多くの小中学校でやっている。4 つの方策を結びつけるのは、小学校だと思う。行政に一番壁がある現れだと思う。行政もそうだが、地域の人間も本当に地域コミュニティに本気で取り組もうとしたらコミュニティスクールはこれから欠かせない手法だと思う。前回も言ったが、教育委員会の方もテーブルに座っていただいて、地域の話を聞いていただきたい。コミュニティスクールはビジョンのパッケージで最高の手法だと思う。

○委　員

・東京で小学校を見に行った。学校の 2 階が教室で、1 階が地域のコミュニケーションの場になっていて、児童クラブ、子どものあずかり、図書館が 1 階にあり、地域の人たちが集まれる場になっていた。すごいなと思った。学校が地域の中にある。校区を主体にしたときに、自分たちのよりどころはどこなのか考えたとき、やはり学校だと思う。校区公民館というものがあるが、大きいところ小さいところによって利用度が違っていると思う。ハードは作りすぎてはいけないという話があるが、科学が進歩し、各家が個の時代になって、どこにコミュニティを求めるとなると、そういう場所がないとなかなかコミュニティがまとめられない。コミュニティビジョンは地域のコミュニティをみんながその手で見直していこうということであると思う。ハード的なものも含めて、人が寄れる場所が必要。団塊の世代も場所が無ければ活用できない。

○委　員

・ビジョンはよくできていると思うが、もう少し優先順位をはっきりさせたほうがよいと思っている。①のきっかけづくりでは、団塊の世代を特にターゲットにしたほうがよいと思う。団塊世代で企業を退職した方たちは、すごくエネルギーがあって、いろいろ経験・知識がある。今活躍している活発なコミュニティの「やねだん」の豊重会長は元東京の銀行マンだったし、柳山アグリランドを開園した峰山地区コミュニティ協議会の徳田会長も電力会社に勤めていた。そういった人たちをターゲットにして、市で、地域のコミュニティづくりに参加しませんかと呼びかけるのはよいのではないかと思っている。

・④の“結い”づくりは重要だ。地域コミュニティは忘れられた利益団体だと思う。今調理師専門学校の非常勤講師をし、法律を教えているが、調理師は調理師協会という団体を持ち、組織化してそれぞれ政治的影響力を行使している。他にも医師会、建設業協会といった利益団体があり政治的影響力を行使できていると思う。地域コミュニティはその点で甘い部分があると思う。これからの地域コミュニティは行政の下請け機関ではなく、政策提言機関としての役割も果たす必要があるのではないかと思う。そのためには、地域コミュニティをまとめあげて、政策提言をして影響力を行使できる仕組みを、協議会がモデルとなって検討していくことになると思う。

○委　員

・地域コミュニティ協議会は、市で条例化されるようなことを考えていると思うがいかがか。

●事務局

・条例化までは考えていない。

◎委員長

・今日とても大事な意見をお聞きしていると思う。皆さんが経験したことを情報交換して、皆さんそれぞれ役員をしている人は分かっている。役員の内容、行うことは同じでもこれだけ、見方が違うということが、認識でできたと思う。協議会自体はそういう地域が抱える課題をいかに解決に近づけるかということだと思う。地域課題解決型のまちづくりだと思う。今まではノルマを消化するという地域の事業だった。新しい方向性はなかなか見出せなかった。今回はそれぞれ既存の組織がまとまってくれれば、役員も少し役も軽減されてくるだろう。そこから新しい方向性にビジョンも提言もできるのではないかと思う。

・市民政策提言のことをアドボカシーというが、市民側から地域コミュニティのあり方の政策提言ができるということは成熟した社会の方向性ではないかと思う。

・学校校区、鹿児島方式といわれているように小学校の中に公民館を持っているのは全国的にそう多くはない。学校校区の単位で公民館を所有していて、そこが地域活動の拠点となる。ハードソフト含めて持っている。それに格差があるので、どうだろうというところである。

・高齢社会では、高齢者と若い世代が世代間交流できるような構造にしていくというコミュニティの手法はよいと思う。奄美大島では、若い世代が 2 階、高齢者世帯が 1 階に住み、入り口で出会うということで、健康状態がチェックできるということがある。若い世帯だけ、高齢者世帯だけまとめるというのではなくて、そういう方法もこれからは考えられる。コミュニティスクールを含めてこのコミュニティ協議会のやる事業と、連携する可能性があると思うので、今いただいた皆さんの意見を含めて独自のアイデアがあれば、最後に出していただきたい。

○委　員

・コミュニティを勉強しようと東北に行ってきた。お会いしたのが、ＮＰＯ法人の防災サポート宮城という、コミュニティに対する防災アドバイスをするところの人だった。先日小学校で、不審者に対する集団下校の訓練が校区公民館運営審議会の主催であったが、そのときに感じたのが、学校の職員は向こうを向き、親は向こうを向き、地域は向こうを向いている。本来リードすべき大人が、一体感のないまま、ただ、役割のもと、子どもの手を引いている。これは本当の訓練なのかなと思った。東北は地震地域なので、先進県で、マンションと町内会が隣接していたら、お互いの組織が協定を結ぶ。津波がきたら、マンションを開放し、炊き出しのときは町内会を開放するというお互いのコミュニティの立場を生かした助け合いを、平常のときから作り上げようというサポートの団体であった。

・コミュニティビジョンを推進するにあたって、本当の危機感が無いと議論が進まないと思う。自治組織という認識が町内会の人たちに足りない。マンションの管理組合は、下に降りたら掃除の人が常にいるし、常に管理してくれているという認識が

ある。管理組合にはお金を払う。町内会に対してはそれが薄れてきている。これからは互いにもう少し危機感を持って作り上げていかないと、コミュニティビジョンは「町内会をどうすればいいの」という議論で終わってしまうと思う。

◎委員長

・想定できなかった出来事が起こったときにコミュニティの力が試されてくると思う。本市の場合も、従来の既存の組織だけでは対応できない事態も想定される訳で、そういうことも含めて可能性を探っていく。既存の組織の活力は失わない形で、新しい方向性とどううまく力を合わせてコラボができるのか。そういうことのための組織づくりが求められているのではないか。協議会に各組織がどうチャレンジしていくのかという可能性について委員の中から指摘をいただいた。大変重要な指摘だったと思う。

・あと4項目にご意見をいただけば、事務局もこれを整理しつめていくことができると思う。4つの方策について独自の考え、アイデアがあれば出してほしい。

○委　員

・コミュニティ協議会を作る中で、それぞれの団体が、地域の中での役割、専門部をつくっていくという形になると思うが、その役割をしっかり見極め合えるようになっていくと、お互いに認め合って、いい関係ができていくのではないかと思う。同じような組織が同じようなことをやっている気がするが、うやむやになっていて、どこまで手をだしていいのか分からない状況が出てきていると思う。ＮＰＯもいろいろ団体が立ち上がっているが、地域になかなか入っていけない、また地域の中でどういう活動ができるという認識が、コミュニティの中に取り込む中で見極められる場になっていけばよいと思う。

・奈良で行われたＮＰＯの全国大会に行ってきたが、そこで「新しい公共」という言葉を教えてもらった。新しい公共というものをどのように作り出していくかというのが、コミュニティビジョンになっていると思うし、そのあたりを前向きに地域を生かしていくように発展していくべきだと思うので、がんばりましょうといいたい。

○委　員

・先ほども出たが、教育委員会もこの場に出てくるべきと思う。合併直後からずっと考えているが、縦割りのまずいところがでてくるときがある。例えばＰＴＡではＰＴＡのいろいろな会合はやるが、団塊の世代以上の人はそれなりに対人経験をしているのでＰＴＡにはそういった人たちにも参加してもらって、話す機会があってもいいと思うが、それをどこに持っていったらいいのか自問自答している。そういうものがないのでＰＴＡはＰＴＡだけで若い世代が一生懸命やるが、横のつながりがないので、進歩がない。壁を取り払い縦割りから横の連絡をとるようにしないといけない。先日文化祭の反省会をしたが、ＰＴＡから実行委員長は出てこない。ＰＴＡの会長が出てくるだけで反省にならない。やはり同じ土俵にいろいろな関係者が自分から進んで出てきて議論をぶつけ合って、改善点を見出して、翌年度に生かすということであれば進歩があると思う。ＰＴＡはＰＴＡ、校区は校区ということで両方がぶつかり合う場がないのがいけない。コミュニティづくりにしてもそういう壁を取り払わないと今のままでは平行線をたどる部分が多いのではないかと思う。

○委　員

・①～④の方策で、すべて網羅していると思うが、さらにこの４つの方策を市民に分かりやすく説明するために、施策例の下に具体的な活動事例を入れたほうがいいのではないか。主なものを項目ごとにあげてもらえばいいと思う。

○委　員

・自分で会議に参加していて、いろんなことを聞いている自分でも理解が追いつかない部分がある。市民の人たちは分からないと思う。見える数値化というのが必要ではないかと思う。企業の場合は売り上げや利益だと思うが、ここで重要なのは、協議会を作った後の加入率であると思う。そういった具体的な加入率の目標を内部だけでもかまわないので出す必要があると思う。今とどう変わったという変化の履歴が残ることは、地域校区を取り込んでいく中で重要なポイントだと思う。

○委　員

・【資料２】の中の今後の計画スケジュールが示されているが、７月のモデル地域発足というのは何を起点に決めたのか。まだこういった状態なのに。3・4月のモデル地域説明、合意形成とあるが、ちょうど、どの町内会でも役員が変わり、次の人は何も分からないという時期にあたる。それどころじゃない時期だ。そういうことも考慮に入れて発足の時期を考えてほしい。バタバタしてもよいものはできない。

◎委員長

・今各活動をされているスケジュールから見ても、より効果的な設定をという意見をいただいた。事務局で一度引き取って精査をしていくということでどうだろうか。

○委　員

・ビジョンは立派なことが書いてあるが、一般の人に分かりにくいと思う。協議会を作ったらどういうメリットがあって、どうよくなるということを示していただきたいと思う。どうなるの、よくなるの、補助金はいくらもらえるのということを難しいだろうが示してもらえれば分かりやすいと思う。

◎委員長

・見える数値化、という話もあったが、新しい組織ができて、どういう方向に進むかというのは、関心も高く不安もあると思う。理解ができるかが活動に積極的に参加するかの要諦である。事務局の案はあくまでもたたき台なので、これがまた具体化し詰められていくと思う。そういう情報発信のあり方も含めて検討していかなければならないと思う。

・「何ができるか」ということばっかり議論をしているが、これは可能性の話である。もう一つ大事なことは「いかにやれたか」ということだ。これは現実性の話。可能性と現実性を若干混同しているところがあるので、今後分けて詰めていかなければならない作業だと思う。

・既存の組織で取り組んできたことが、苦痛だ、大変だったという負の遺産のように言われるが、それを財産に変えていくという発想の切り換えも必要。前向きにやりましょうという方向性がビジョンの中から出てくれば、分かりやすい形で、市民にも分かりやすい形でおろしていくということが大事だと思う。

・言葉は鹿児島市民が分かりやすくイメージを描けるような、活動事例、数値目標と

いった、具体的にビジョンに取り組んでどういう効果があるかいうようにしていかなければならない。事務局は精査して詰めていただければと思う。

・予定の時間が間もなくだが、最後に各委員の皆さんから今日もう少し言っておきたいということがあれば、最後に意見をいただきたい。

○委　員

・会議の時期は月末をできるだけ避けてほしい。ご配慮いただきたい。

○委　員

・自分が住む地域は、隣接する既存の町内会に入れてもらえればよかったのだが、その町内会に、湧き水による収入があった。そこへ、自分たちは全員がサラリーマンで、持参金もない小さな集まりが隣接のそういう町内会に入らせてくださいと言ってもいい顔をしてくれなかった。なので仕方なくあいご会を立ち上げた。

・ビジョンで大きなひとくくりになると、格差の問題があると思う。八幡校区振興会のように大きな収入をあげていて、町内会費が高いのかと思ったら、そうでもない。町内会自体が事業のような気がした。私たちは、ビジョンでひとくくりにされても取り残されていくのではないかとかえって危機感を持っている。

○委　員

・区域内にマンションが建っている。何回も説明して、加入のお誘いをするが「入りません」と言う。マンションには管理組合があるので十分だと言う。「あいご会はどうしますか」と聞くとそれだけ入らせてくださいと言う。しょうがないから入れているが、わがままを言うなと思う。でも入ってくださいと言っている。今 120 人くらい小中学生がいる。

○委　員

・収入はどうなっているのか。

○委　員

・町内会費がそれぞれ 300 円くらいなので、その中から 1 世帯あたり、100 円ずつ振興会にもらっている。それで 400 万円くらい。市の補助金などを合わせて、全体で 600 万円ほどである。その中で、専門部の活動を行っている。行事の都度集める必要がないので、スムーズにはいく。あとはリーダーがどこまでがんばってやっていくか。今度、八幡校区すこやか祭りという文化祭をするが、八幡校区の病院、福祉施設などに 10 数社入っていただいて、一緒にやるが、5000 円ずつ寄付をいただく。大体 10 万円くらいになる。振興会からも審議会からも出してやっている。特別、お金を持っているわけではない。

◎委員長

・同じ市内であれば、おでかけ町内会といったような、意見交換、情報交換をしたらどうか。皆さん県外に行って刺激があると、帰ってきて必ず口に出したくなる。隣接する町内会とコラボしていく、協働していくというきっかけになっていくと思う。お互いに声を掛け合うというのが一つの方法ではないかと思う。

・最後に皆さんから次回はここのところを議論の対象にしてほしいということがあれば、出していただきたい。

○委　員

・既存の人のマネジメントというものに加えて、活動資金を生み出すということも、もう少し出されてもよいのではないかと思う。補助金だけ、会費だけでやっていくというのではなく、生産性を持ち出してやっていけるというシステムも必要。あるだけの中でやりくりをしていくことも大切だが、もう少し生み出していくということも入れ込むことができないのかなと思った。

◎委員長

・事務局は案を持っているだろうと思うが、まだ出せないというところかと思う。地域コミュニティ協議会ができると、運営には当然予算がついて、事務局の予算手当があると思う。組織運営上役員の手当てというのがあると思うが。その構想は市の人的支援と、市の補助というのは次回くらいに大まかな方向で話ができるのではないか。将来はこういう形でイメージできますという方向性が次回くらいに見えてくると、従来の組織とここが違うということで、なるほどとなり、取り組みが加速していくこともあると思う。

・候補地の中で5地域ほどヒアリングをしたとのことだが、匿名にしているのは、出してしまうとイメージを固定化してしまうということだろう。

○委　員

・第五次総合計画の策定を進めていると思うが、地域コミュニティの問題が頭を出していいのではないかと思う。

●事務局

・総合計画では、地域の協働プロジェクトの中で、地域コミュニティは大きな位置づけであるので出してある。

○委　員

・地域まちづくりワークショップの会議があったと思うが、そこはこのビジョンとは関わりがないのか。それとの兼ね合いはどうなのか。

●事務局

・モデルイメージの中に入れている。地域まちづくりワークショップの方々にも協議会に入っていただき、地域の力となるような方向に持っていきたい。

◎委員長

・予定の時間になったが、今日いただいた意見をもう一度、事務局で精査をしてください。次回の説明の方法は、委員は組織の代表であり、市民の代表であるので、資料を見て、なるほどと得心がいくような資料がでてくると共通の認識がもてると思う。次回は「これとこれが前回大きなテーマになりました」というところをおさえて、それを今回の会議ではどうするのかということで進めていったほうが効果的であると思うので、次回はその絞込みもお願いしたいと思う。